



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 第一稀元素化学工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4082 URL <https://www.dkkk.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長執行役員(氏名) 國部 洋  
 問合せ先責任者(役職名) 財務経理部長(氏名) 井上 敬一 (TEL) 06-6206-3311  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	26,469	22.5	4,790	64.9	5,212	29.2	3,474	14.4
2022年3月期第3四半期	21,610	40.2	2,904	195.5	4,032	411.0	3,036	580.3

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 5,890百万円( 82.2%) 2022年3月期第3四半期 3,231百万円( 412.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	142.97	—
2022年3月期第3四半期	125.05	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	67,857	37,018	53.6
2022年3月期	58,043	31,816	53.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 36,379百万円 2022年3月期 31,195百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	13.00	—	10.00	23.00
2023年3月期	—	18.00	—		
2023年3月期(予想)				16.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,200	23.3	5,100	35.3	5,500	△8.3	3,550	91.9	146.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期3Q	24,400,000株	2022年3月期	24,400,000株
2023年3月期3Q	82,880株	2022年3月期	108,889株
2023年3月期3Q	24,304,106株	2022年3月期3Q	24,285,198株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

	2022年3月期 第3四半期 実績 (百万円)	2023年3月期 第3四半期 実績 (百万円)	前年 同期比 (%)	2023年3月期 通期 業績予想 (百万円)	進捗率 (%) ※1
売上高	21,610	26,469	22.5	36,200	73.1
触媒	12,906	16,629	28.8	22,400	74.2
電子材料・酸素センサー	2,175	2,308	6.1	3,400	67.9
ファインセラミックス	2,544	2,937	15.5	3,900	75.3
耐火物・ブレーキ	2,450	2,910	18.8	3,930	74.1
その他	1,532	1,684	9.9	2,570	65.5
営業利益	2,904	4,790	64.9	5,100	93.9
経常利益	4,032	5,212	29.2	5,500	94.8
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,036	3,474	14.4	4,100	84.8

※1. 2023年3月期通期業績予想は2022年10月28日公表時の予想であり、進捗率は同予想に対するものです。

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年12月31日）における世界経済は、新型コロナウイルス感染症がもたらした経済ならびに社会の混乱が十分に解消しない中、ロシアのウクライナ侵攻の長期化に伴う経済制裁、中国の「ゼロコロナ」政策下における活動制約などがサプライチェーンの混乱に拍車をかけました。また、高まるインフレ率を抑制するため、金融引き締め政策が主流となり、世界的な景気減速への懸念が高まりました。

当社グループの主要顧客である自動車産業におきましては、長引くサプライチェーンの混乱を受けて自動車メーカー各社では計画比で減産を余儀なくされましたが、中国における車両購置税などの減税政策を支えに改善が見られ、2022年の世界ライトビークルの累計販売台数は、前年比で0.6%減となりました。

当社グループにおきましては、自動車排ガス浄化触媒、二次電池、酸素センサー、ブレーキなどの車載用途の復調がみられたことに加え、産業用構造部材、キッチンセラミックスなどが堅調を維持しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、販売数量が前年同期比で5.6%減少したものの、原材料価格の高騰に伴う販売価格上昇や円安による為替影響等により26,469百万円（前年同期比22.5%増、業績予想36,200百万円に対して進捗率73.1%）、営業利益は、前期に戦略的に積み増した原料の市況や円安の影響を受けていない原価上昇前の在庫の販売による効果、為替影響等により4,790百万円（前年同期比64.9%増、業績予想5,100百万円に対して進捗率93.9%）、経常利益は、外貨建資産における為替差益の計上等により5,212百万円（前年同期比29.2%増、業績予想5,500百万円に対して進捗率94.8%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,474百万円（前年同期比14.4%増、業績予想4,100百万円に対して進捗率84.8%）となりました。

用途別の販売状況は、次のとおりであります。

## (触媒用途)

当社グループの主力製品である自動車排ガス浄化触媒材料は、半導体不足に端を発した部材・部品の不足による自動車減産の影響に加え、中国の「ゼロコロナ」政策下における活動制約の影響を受け、販売数量は前年同期を下回ったものの、自動車販売の復調に伴い、需要回復が進みました。一方、売上高は、原材料価格の高騰に伴う販売価格上昇や円安による為替影響を受け、増収となりました。

その結果、触媒用途の当第3四半期連結累計期間の売上高は、16,629百万円（前年同期比28.8%増、業績予想22,400百万円に対して進捗率74.2%）となりました。

(電子材料・酸素センサー用途)

電子材料は、圧電素子や積層セラミックコンデンサ (MLCC) などの電子部品及び光学用途は世界的にコロナ禍での巣ごもり需要が一巡したことに加え、中国における通信デバイス市場の低迷を反映し、販売数量が前年同期を下回りました。

二次電池材料は、中国の「ゼロコロナ」政策などによる在庫調整の影響を受けたものの、米国におけるインフレーション抑制法の成立を追い風に販売数量を伸ばし、前年同期比で増収となりました。

酸素センサー材料は、上半期に自動車減産の影響を受けたものの、自動車販売の復調に伴い、当第3四半期連結累計期間の販売数量は前年同期並みとなりました。

これらの結果、電子材料・酸素センサー用途の当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,308百万円（前年同期比6.1%増、業績予想3,400百万円に対して進捗率67.9%）となりました。

(ファインセラミックス用途)

ファインセラミックスは、産業用構造部材は堅調に推移いたしました。歯科材料は、先進国の経済正常化と新興国への市場拡大に伴い、コロナ禍以前を上回る水準で推移しました。キッチンセラミックス材料は、インバウンド需要の回復には時間を要するものの、最終製品の販路拡充などにより、販売数量の増加が続いております。

燃料電池材料は、販売数量が堅調に推移したことに加え、原料価格の高騰に伴う販売価格上昇により、増収となりました。

これらの結果、ファインセラミックス用途の当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,937百万円（前年同期比15.5%増、業績予想3,900百万円に対して進捗率75.3%）となりました。

(耐火物・ブレーキ用途)

耐火物材料は、世界粗鋼生産量が需要を上回り在庫過多となった2021年の影響を受け、サプライチェーン内の在庫調整が行われた結果、販売数量は前年同期並みとなりました。

ブレーキ材は、自動車減産の影響に加え、中国の「ゼロコロナ」政策下における活動制約の影響を色濃く受け、販売数量は前年同期を下回ったものの、原料価格の高騰に伴う販売価格上昇により、増収となりました。

これらの結果、耐火物・ブレーキ用途の当第3四半期連結累計期間の売上高は、2,910百万円（前年同期比18.8%増、業績予想3,930百万円に対して進捗率74.1%）となりました。

(その他用途)

アルミ配管ろう付け用セシウムフラックス含むセシウム化合物は、不透明感があるものの一部を除き復調し前年同期を上回りました。

セシウム化合物以外の販売数量は前年同期を下回ったものの、原料価格の高騰に伴う販売価格上昇の影響を受け、増収となりました。

これらの結果、その他用途の当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,684百万円（前年同期比9.9%増、業績予想2,570百万円に対して進捗率65.5%）となりました。

なお、2022年5月13日公表の中期経営計画「DK-One Next」では、2026年3月期の売上高構成で、「戦略分野」22.5%、「自動車排ガス浄化触媒」55.0%、「基盤分野」22.5%、売上高40,000百万円を目指しており、当第3四半期連結累計期間は、「戦略分野」13.9%、「自動車排ガス浄化触媒」66.8%、「基盤分野」19.3%、売上高26,469百万円となりました。また、2022年10月28日に公表いたしました通期の連結業績予想では、売上高36,200百万円を見込んでおります。

分野	用途
戦略分野	半導体・エレクトロニクス（電子部品、光学、半導体など） エネルギー（二次電池、燃料電池、水素関連など） ヘルスケア（歯科材料など）
自動車排ガス浄化触媒	自動車排ガス浄化触媒、酸素センサー
基盤分野	工業用触媒、構造部材、耐火物、ブレーキ、ブレージング、表面処理、関連事業

## （2）財政状態に関する説明

### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は67,857百万円で、前連結会計年度末に比べ9,814百万円増加しました。これは主に、有形固定資産の増加（3,113百万円）、原材料及び貯蔵品の増加（2,344百万円）、製品の増加（1,791百万円）によるものです。

当第3四半期連結会計期間末における負債は30,839百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,612百万円増加しました。これは主に、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金含む）の増加（3,584百万円）によるものです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は37,018百万円で、前連結会計年度末に比べ5,202百万円増加しました。これは主に、利益剰余金の増加（2,794百万円）によるものです。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は前連結会計年度末53.7%から53.6%となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の売上高は、販売数量は計画を下回って推移したものの、原料価格の高騰に伴う販売価格上昇や円安による為替影響を受け増収となり、ほぼ計画通りの売上高となりました。営業利益は、前期に戦略的に積み増した原料の市況や円安の影響を受けていない原価上昇前の在庫の販売が計画より早く進行したことや為替影響等により業績予想に対して高い進捗率となりました。また、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益も、外貨建資産における為替差益の計上等により、業績予想に対して高い進捗率となりました。当第4四半期連結会計期間におきましては、原価上昇前の在庫販売効果の希薄化による売上原価の上昇等による費用増加等があり、営業利益は減少する見込みです。それらを踏まえ、売上高及び営業利益ならびに経常利益は、2022年10月28日に公表しました連結業績予想からは変更しておりません。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、今期特別利益にて補助金収入を見込んでおりましたが、来期以降に持ち越されることが確実となったため、2022年10月28日に公表しました連結業績予想から変更しております。

### <業績等の予想に関する注意事項>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,840,381	9,785,739
受取手形及び売掛金	6,025,223	7,162,939
製品	5,619,407	7,411,242
仕掛品	1,986,425	2,813,559
原材料及び貯蔵品	4,209,359	6,554,231
その他	1,822,030	2,067,867
流動資産合計	28,502,826	35,795,580
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,784,030	6,024,572
機械装置及び運搬具(純額)	5,868,061	5,364,681
土地	2,235,721	2,235,721
建設仮勘定	10,353,215	13,755,861
その他(純額)	332,029	305,531
有形固定資産合計	24,573,058	27,686,369
無形固定資産	1,385,494	1,300,272
投資その他の資産		
その他	6,031,111	5,996,117
貸倒引当金	△2,448,937	△2,920,610
投資その他の資産合計	3,582,174	3,075,507
固定資産合計	29,540,726	32,062,149
資産合計	58,043,553	67,857,729
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	873,067	2,707,145
短期借入金	2,900,000	2,700,000
1年内返済予定の長期借入金	3,298,497	3,798,794
未払法人税等	1,253,479	970,181
賞与引当金	447,887	176,217
その他	1,347,494	1,095,818
流動負債合計	10,120,426	11,448,156
固定負債		
長期借入金	15,742,776	18,827,475
退職給付に係る負債	2,550	3,368
その他	361,361	560,184
固定負債合計	16,106,687	19,391,029
負債合計	26,227,113	30,839,185
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	787,100	787,100
資本剰余金	1,154,772	1,175,640
利益剰余金	29,102,373	31,896,545
自己株式	△40,185	△30,558
株主資本合計	31,004,060	33,828,728
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	310,875	294,464
為替換算調整勘定	△258,272	2,139,157
退職給付に係る調整累計額	138,966	117,211
その他の包括利益累計額合計	191,569	2,550,832
非支配株主持分	620,809	638,982
純資産合計	31,816,439	37,018,543
負債純資産合計	58,043,553	67,857,729

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	21,610,090	26,469,791
売上原価	15,540,545	17,983,927
売上総利益	6,069,544	8,485,864
販売費及び一般管理費	3,165,173	3,695,317
営業利益	2,904,370	4,790,546
営業外収益		
受取利息	46,394	38,396
受取配当金	13,312	18,476
持分法による投資利益	139,596	27,699
為替差益	1,007,141	1,104,716
助成金収入	3,109	11,238
その他	129,620	34,879
営業外収益合計	1,339,173	1,235,406
営業外費用		
支払利息	42,206	184,991
デリバティブ評価損	165,056	142,173
貸倒引当金繰入額	-	471,672
その他	3,302	15,067
営業外費用合計	210,565	813,905
経常利益	4,032,978	5,212,047
特別損失		
固定資産除却損	94,545	717
特別損失合計	94,545	717
税金等調整前四半期純利益	3,938,433	5,211,330
法人税、住民税及び事業税	956,908	1,741,894
法人税等調整額	△82,672	△47,128
法人税等合計	874,236	1,694,766
四半期純利益	3,064,196	3,516,563
非支配株主に帰属する四半期純利益	27,449	41,772
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,036,746	3,474,791

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	3,064,196	3,516,563
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△24,309	△16,411
為替換算調整勘定	204,079	2,351,926
退職給付に係る調整額	△21,041	△21,754
持分法適用会社に対する持分相当額	9,039	59,789
その他の包括利益合計	167,767	2,373,550
四半期包括利益	3,231,964	5,890,114
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,194,024	5,834,055
非支配株主に係る四半期包括利益	37,939	56,058

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。